



TITLE:

# 京都大学女性卒業生にたいする性差別にかんするアンケート調査報告

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学女性卒業生にたいする性差別にかんするアンケート調査報告.  
女性教員・女子卒業生からみた京都大学: 研究・教育環境調査から  
1996: 1-33

ISSUE DATE:

1996-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193035>

RIGHT:

京都大学女性卒業生にたいする性差別  
にかんするアンケート調査報告

## Ⅱ 京都大学女性卒業生に対する、性差別に関するアンケート調査

### A 調査方法

京都大学を卒業・修了した女性の中から 1994 人を対象に、郵送によるアンケート調査を行った。調査の対象者は、『1993 年度版京都大学卒業生人名録』（京都大学卒業生名簿編纂委員会発行）から抽出した（他大学の学部を卒業して大学院のみ京都大学に在籍した人も、大学院修了者として収録されている）。この人名録には各人の性別が記されていないので、名前をもとに女性をリストアップし、そのリストの約半数の 1994 人にアンケート用紙を送付した。1996 年 1 月 22 日に発送し、3 月 1 日までに返送されたもので締め切った。返送時の郵送料は、料金別納により調査者が負担した。

発送数 1994 通に対して、宛先不明で戻ってきたものが 258 通、回答が返送されたものが 589 通で、回収率は 34%であった。

アンケートの全文は章末の付録 1 に掲載するが、ここで内容を簡単に説明しておく。

問 A では、職場におけるセクシュアル・ハラスメントに関する調査等（文献 1～4）を参考にして、大学での性差別や性的被害の例として考えられる項目を 22 個列挙し、在学中にそのような言動をされて不快に感じたことがあるかどうかを尋ねた。ただし、そのような言動をした相手が、勉学や研究において回答者となつた京大の教職員・学生・院生であった場合に限定した。さらに、発言に関する項目には具体例を記述してもらうための欄を併設した。

列挙した項目の多くは、いわゆるセクシュアル・ハラスメントに該当するふるまいである（セクシュアル・ハラスメントの定義に関しては、章末の付録 2 を参照）。その他に、より一般的な性差別（女性蔑視や就職差別など）や性暴力に関する項目も含んでいる。

ここで、単に該当する言動があったかどうかではなく、そのようなふるまいをされて不快に感じたかどうかを基準にして答えてもらった理由は、一般に、ある言動が性差別やセクシュアル・ハラスメントになるかどうかを判断する際には、された本人がその言動を「不快な」、「望まない」、「歓迎されない」（英語ではいずれも *unwelcome*）ものと感じたかどうか重要なポイントであるとされているからである。したがって、項目に○印を付けながら「不快に感じたのではありません」等のコメントを付しているものは、集計からは除外した。

問 B では、前問に列挙したような経験の中で、もっとも深刻だったもの 1 つについて詳しく質問した。

問 C では、大学における性差別や性的被害などに対処するための相談機関について、京大での現状とそれに対する女性教官懇話会の意見を示した上で、回答者の意見を求めた。

問 D では、相談機関以外に必要な対策について意見を求めた。

問 E では、他の女子学生が問 A のような経験をして困っていた例を見聞きしたこと

があるかどうかを尋ねた。

最後に、その他、自由に意見や感想を書いてもらうための欄を設けた。

## B 調査結果

### 回答者の記述からの引用について

記述の引用には○印を付して記す。ただし、プライバシー保護の観点および紙数の制限などから、手を加えたものもある。実名があげられていた場合は、省略するか伏せ字（「○○学科」など）にした。

### 1. 回答者の属性

プライバシー保護の観点から、京大における在籍期間（学部・修士課程・博士課程のうちの、どれに在籍したか）と、卒業・修了などで京大を離れたおおよその年代について問うだけにとどめた。女子の数が非常に少ない学部・年代があるため、学部と正確な卒業年度がわかると個人が特定できる恐れがあるからである。

在籍期間については、学部のみ在籍した人が回答者全体の67%、大学院（修士または博士）のみ在籍した人が8%、学部と大学院の両方に在籍した人が23%、記入のなかった人が1%であった。

京大を離れた年代については、50年代以前が回答者全体の7%、60年代が13%、70年代が28%、80年代が31%、90年代が16%、まだ在籍中の人が5%であった。

### 2. 在学中に受けた性差別や性的被害（問A）

#### 不快な経験の有無

問Aに挙げられた項目を1つでも選択した回答者は275人で、全回答者の47%であった。回答者の5割近い人々が、在学中に何らかの性差別や性的被害を受けていたことになる。さらに、1人あたり平均何項目を選択したのかを求めたところ、1.2個であった（0個：314人、1個：104人、2個：70人、3個：43人、4個：30人、5～9個：22人、10個以上：6人）。

5割近い人々が何らかの性差別や性的被害を受けたといっても、問Aは一般的な性差別から性暴力まで、それも比較的軽いものから重いものまで様々なものを含んでいる。そこで、身体的接触や性的関係の強要に関する項目（項目(3)、(14)～(18)）に限って集計したところ、これらを1つ以上選択した回答者は28人で、回答者全体の5%を占めた。

次に、性差別や性的被害を1つでも経験した回答者の割合を、年代別に集計した。その割合は、

まだ在籍中：62%	90年代：59%	80年代：48%
70年代：40%	60年代：41%	50年代以前：46%

であり、最も少ない年代（70 年代）でも回答者の 4 割に達していた。すなわち、50 年代以前から現在に至るまで、性差別や性的被害は途切れることなく続いていたことが分かる。

## 項目ごとの集計

性差別や性的被害の内容をあらわす各項目を選択した回答者の数を、表 1 に示す。

頻度の高かった 5 項目を順に並べると、「(19) 他の男子学生と比べて次のような点について不利な扱いを受けた」[108 人]、「(10) 女性だというだけで、ちやほやされて甘やかされた」[92 人]、「(5) お茶くみや掃除、コンパでのお酌などの役割を、当然のことにようにさせられた」[75 人]、「(1) 教官が女性をバカにしたり、型にはまった役割を押しつけるような発言をした」[66 人]、「(11) 容姿、身体、服装、私生活などに関して、不快なことを言われた」[47 人]、となった。

誰からも選択されなかった項目は、1 つもなかった（ただし、(19)～(21) の下位項目については、選択されなかったものもあった）。

次に、項目を順番に挙げ、その項目を選択した人数と、自由記述欄に記入された具体例（◎印）を示す。

### i) 授業の場における性差別や性的被害

(1)（授業の場で）教官が女性をバカにしたり、型にはまった役割を押しつけるような発言をした。 [66 人]

◎女性は男性より脳味噌が軽く、もともと能力が劣っているとのことでした。

◎ごく一部の教授が、女性は 2、3 年社会で働いた後結婚すればよいとか、女は男に従えとか言っていた。

◎「君い、女の子は早く結婚した方がイイヨ」

◎「女が学問して何になる」、「女は家庭を守っていればよい」など。

◎ことさらに「女性は・・・」、「女性は・・・」と分けて話そうとする。

◎女に大学教官の就職はないと言われました。

◎「女性は好まぬから留年しないように。二年間もつきあいたくない」

◎出席人数の 10% 位しか女子がいなかったのに、まるで「女子大」で教えているようだと言われた。発言の真意は奈辺にあるかわからないが。

◎刑事学の授業で、「レイプは女の責任」といった発言を聞かされました。

(2)（授業の場で）教官が容姿や服装などに関する不快な発言をした。 [12 人]

◎「世間並みの女の子のような服装・メイクをして女子学生・院生が大学に来るようになるから問題が起こる」

◎「服装が女性らしくない」

◎容姿、身なりなどに関して細かく感想を述べる。

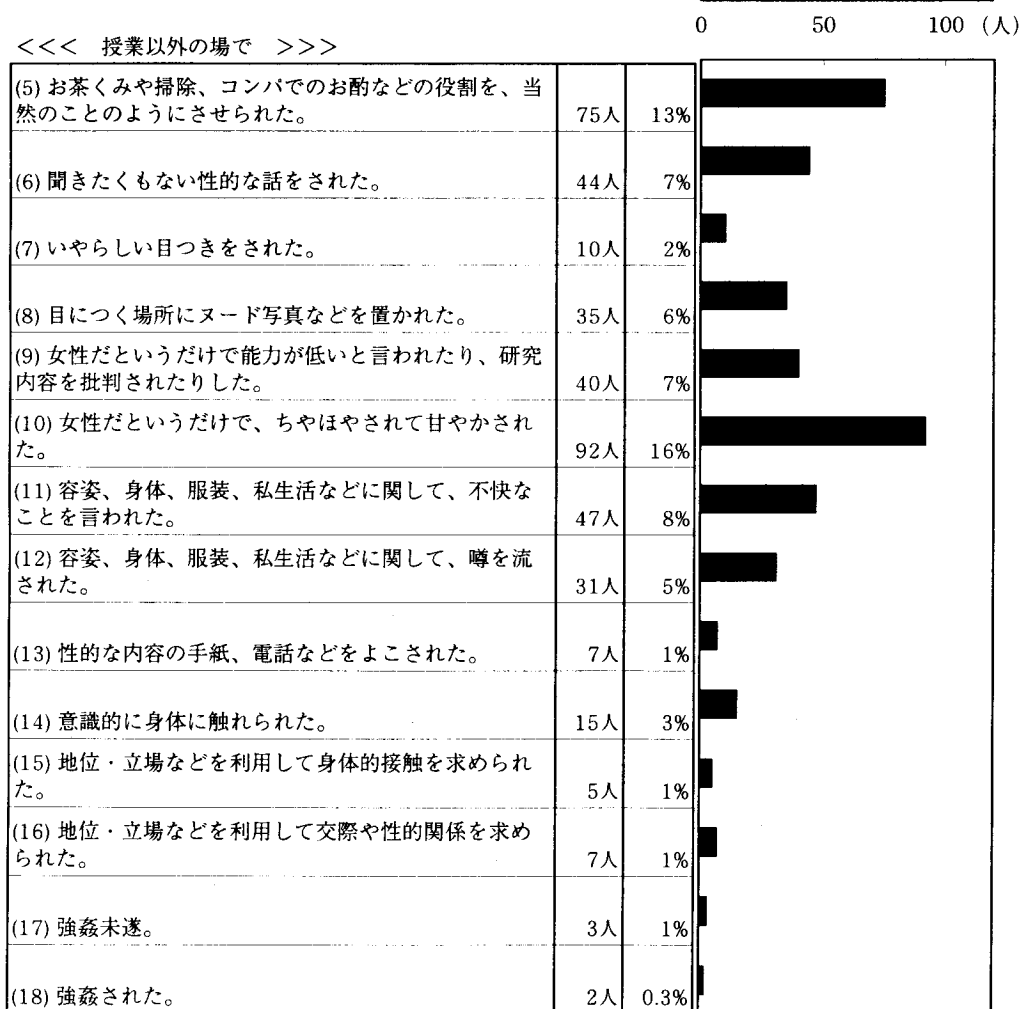
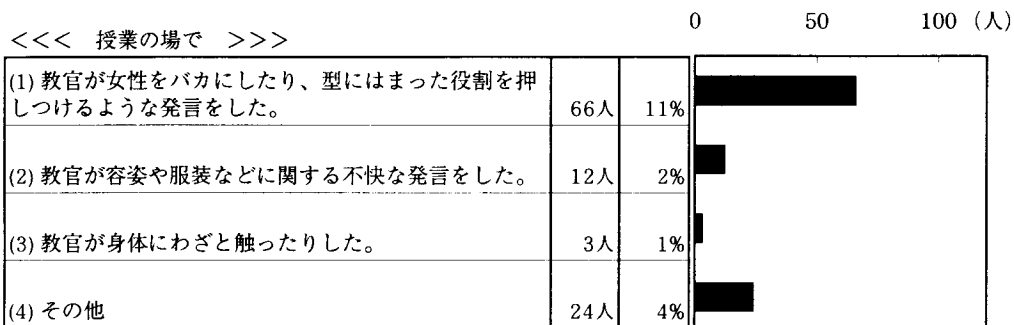
◎教材（文学）の内容にある女性の身体に関して。

(3)（授業の場で）教官が身体にわざと触ったりした。 [3 人]

表1 在学中に受けた性差別や性的被害

「あなたが京都大学の学生だったとき、勉学・研究においてあなたとつながりがある京大の教職員（非常勤も含む）や学生・院生などから、次のようなふるまいをされて不快に感じたことがありますか。」（複数回答可。回答者総数：589人、この問の項目を1つでも選択した回答者数：275人。表中の％は、回答者総数に対する割合。）

単にそのようなふるまいがあったかどうかではなく、不快に感じたかどうかを問うていることに注意。



## &lt;&lt;&lt; 授業以外の場で &gt;&gt;&gt; (続き)

(19) 他の男子学生と比べて次のような点について不利な扱いを受けた。	※ 108人	18%	
a. 就職・進学などの世話	86人	15%	
b. 学位・成績などの判定	10人	2%	
c. 施設・資料の利用	2人	0.3%	
d. 奨学金の推薦	7人	1%	
e. 教育・指導	27人	5%	
f. その他	17人	3%	
(20) 以上のようなふるまいに対して拒否や抗議をしたために、次のような点について不利な扱いを受けた。	※ 17人	3%	
a. 就職・進学などの世話	9人	2%	
b. 学位・成績などの判定	6人	1%	
c. 施設・資料の利用	2人	0.3%	
d. 奨学金の推薦	2人	0.3%	
e. 教育・指導	7人	1%	
f. その他	9人	2%	
(21) 逆に、以上のようなふるまいに対して拒否や抗議をしなかったために、次のような点について有利な扱いを受けた。	※ 13人	2%	
a. 就職・進学などの世話	6人	1%	
b. 学位・成績などの判定	2人	0.3%	
c. 施設・資料の利用	0人	0%	
d. 奨学金の推薦	0人	0%	
e. 教育・指導	5人	1%	
f. その他	2人	0.3%	
(22) その他	10人	2%	

※この項目で、少なくとも1つ以上に○を付けた人の数。

(4) (授業の場で) その他 [24 人]

- ◎論文指導等の名目で研究室（教官の個人研究室）に呼び出され、何も知らずに行くと、「性的サービス」を要求されるといったことが日常的にあったが、男子院生や教職員はもちろん見て見ぬふりで、助けを求めてもムダ。
- ◎実験の指導をしている職員から、実験中に「（性行為を）一度やらせてくれ」と言われた。
- ◎研修員で大学に残る際、女の子は父親の手紙が必要だと言われた。男子の場合は本人の意思を確認するだけでよかった。また、「船に女性が乗ると海の神が怒って他の者が迷惑するから、実習に来られると困る」と言われ、結局その実習に参加できなかった。宿泊しなければいけない実習も、「部屋がない」と言われて参加できなかった。
- ◎試験を落とした時、担当の教授に教授室に呼び出され、妙な雰囲気の中、長時間にわたって試験に関係のないプライベートなことを聞かれた。
- ◎「旧制大学の時は女性はいなかったのに」とよく言われました。目立たぬように黒い服を着て授業を受けました。目立たないようにしていると、反対に女性らしく色物の服を着てくるようにと言われました。
- ◎最初の授業が始まるとき、「今年は専攻の過半数が女性で・・・（困った、大変だ）」と冗談めかして言われた。
- ◎女子が少ない学部だったので、視線が気になった。
- ◎語学の授業で、非常勤講師が好んで男性性器の話をした。
- ◎実習で学外に出たとき、急にラブホテルの話を持ち出され、性経験を聞かれた。
- ◎議論や批判など、物事をはっきり言うことについて「かわいげがない」と言われた。
- ◎「差別するつもりはないけど、女の人相手だときついことが言えない」とよく言われました。

ii) 授業以外の場における性差別や性的被害

(5) お茶くみや掃除、コンパでのお酌などの役割を、当然のことにさせられた。  
[75 人]

(6) 聞きたくもない性的な話をされた。 [44 人]

- ◎教室での旅行で、ヌードショーの話がおおびらに話され、泣きなくなった。
- ◎「女は力で男には勝てない。だから男の自由にできる」
- ◎コンパの席で「授業をさぼって百万遍をぶらりとしていたら・・・」で始まる歌が歌われ、その最後が「京大のねえちゃんとは何にもやりたくない」というフレーズでした。当時はどうのように対処すればよいのかわからず、ただただ「男とはこういうものか」と思い知らされました。
- ◎コンドームをおみやげに渡され、その関連の話をされた。
- ◎研究室でアダルトビデオを見る。
- ◎ゼミ旅行で紅一点だったが、「手を出さないと女性に失礼だ」と発言した。



(7) いやらしい目つきをされた。[10 人]

(8) 目につく場所にヌード写真などを置かれた。[35 人]

(9) 女性だというだけで能力が低いと言われたり、研究内容を批判されたりした。[40 人]

◎「だから女はだめなんだ」、「女子大生亡国論」、「女は国費を使って勉強しなくても結婚して子どもを生めばよい。優秀な男性が国立に来るべき」

◎「女性は学問に向かない」として、最初から差別待遇。

◎女性は学問には——もちろん例外はあるにしても（「狂人でなければ」と言われていました）——向いていない、という認識は当然という雰囲気には満ち満ちていました。

◎論文発表会の場で、「昔、女性に対して質問をしたら、そういうことはすべきでない」と師から言われ、それ以降女性に対しては質問しないことにしている」と冗談まじりに発言された先生がいらっしまった。

◎公平に考えて、自分の能力が高かったとは思いません。ただ、「女は」という先入観で見られていたように思います。

(10) 女性だというだけで、ちやほやされて甘やかされた。[92 人]

この項目を「性差別」とみなすことには抵抗を感じる読者もおられるかもしれないが、ちやほやされて甘やかされた場合には、十分な指導を受けられなくなってしまうことが多い。その意味で、これは教育を受ける権利を不当に奪われることにつながる。攻撃的な差別ではないにせよ、このようなふるまいも女性にとって不利な状況をもたらす得ることは確かである。

また、あくまで回答者が「不快に感じたかどうか」を基準に判断を求めていることに留意されたい。

(11) 容姿、身体、服装、私生活などに関して、不快なことを言われた。[47 人]

◎何度も「あんた彼氏おるんか」と聞かれた。

◎私生活についてよく質問された。恋人はいるのかとか、結婚はしないのかなど。

◎セクシャルな映像を示して「こんな好きでしょう。人妻だから」と言われた。

◎在学中に離婚したが、身体が寂しいだろうとしつこく何回も言われた。

◎「こんな、女や思われへん」と先輩に嘲笑された。「尻の形は安産型や」と助手に言われた。

◎助手に会う度に、「肥ってきているな」と言われた。

◎専攻科目外の院生さんから、容姿に関して「ブス」だとか「いやな女」だとか言われたことがある。

◎担当教授から「きれいな服だね」と言われた。その時着ていたのは薄手のブラウスで、少し透ける布だった（夏だったから）。以後、その服は着ていない。

◎ノーブラでTシャツを着ていたら、頭がおかしいという素振りをされた。

◎大学院生を学部生と比べ「年増」扱いにする。

◎女性だから・・・と思われたくないため、男並に行動していたが、君みたいなのは嫁にはほしくないと言われた。

(12) 容姿、身体、服装、私生活などに関して、噂を流された。 [31 人]

- 誰々と親しい、派手らしい、ルーズらしい、などなど。
- 下宿しているというだけで男子学生と交際があるように言われた。
- ある院生が風邪を引いたときに、他の学生とお見舞いに行ったら、後で色きちがいのように言われた。
- 男と同棲しているらしいという噂を流された。
- 根拠のない恋愛ゴシップのネタによくされた。
- セクハラ、レイプ未遂を訴えた時に、女らしい服装などしてくるからそういう目に遭うのだ、責任は自分の側にあるので教授が悪いのではないなどと言われた。

(13) 性的な内容の手紙、電話などをよこされた。 [7 人]

- 「今日は家内が実家に帰っているから、自宅で一対一で指導をしてあげよう」
- 特にいやらしい内容ではなかったが、住所と電話を勝手に調べられ、ひつこく、つきまとわれた。

(14) 意識的に身体に触れられた。 [15 人]

(15) 地位・立場などを利用して身体的接触を求められた。 [5 人]

(16) 地位・立場などを利用して交際や性的関係を求められた。 [7 人]

(17) 強姦未遂。 [3 人]

(18) 強姦された。 [2 人]

項目(19) ～ (21) では、教官の持つ権限に直接関わる事柄を取り上げた。

(19) 他の男子学生と比べて次のような点について不利な扱いを受けた。

[この項目で、少なくとも1つ以上に○を付けた人数：108 人]

- a. 就職・進学などの世話 [86 人]
- b. 学位・成績などの判定 [10 人]
- c. 施設・資料の利用 [2 人]
- d. 奨学金の推薦 [7 人]
- e. 教育・指導 [27 人]
- f. その他 [17 人]

「f. その他」の具体例

- 女子は来てもらいたくないと考えている助教授がおり、女子が（その研究室への）配属の希望を出せないことがあった。
- ある研究室へ入ろうと見学に行ったが、女は助手その他になれないから来ない方がよいといわれた。あきらめてやめた。
- 論文の連名をはずされた。
- 上級の男子学生がオーバードクターで論文が出ていなかったために、自分は業績が十分にあったにも関わらず、学位請求を待たされた。
- 所属研究室の技官に、規則通りの使用をしているにも関わらず、あからさまな嫌みを言われた。

(20) 以上のようなふるまい（上記の項目 (1) ～ (19) ）に対して拒否や抗議をしたために、次のような点について不利な扱いを受けた。

[この項目で、少なくとも1つ以上に○を付けた人数：17人]

- a. 就職・進学などの世話 [9人]
- b. 学位・成績などの判定 [6人]
- c. 施設・資料の利用 [2人]
- d. 奨学金の推薦 [2人]
- e. 教育・指導 [7人]
- f. その他 [9人]

「f. その他」の具体例

◎指導教官への性的サービスを断ったため、「学界」から追放され、就職を妨害され続けた。その当時は、（よほど特別なコネでもない限り）指導教授の個人秘書として奉仕し、さらに「性的サービス」をしなければ研究職に就くことができないのは常識でした。

◎直接的また間接的に研究の妨害をされた（特に大きな目標であった学位取得に関して）。

(21) 逆に、以上のようなふるまい（上記の項目 (1) ～ (19) ）に対して拒否や抗議をしなかったために、次のような点について有利な扱いを受けた。

[この項目で、少なくとも1つ以上に○を付けた人数：13人]

- a. 就職・進学などの世話 [6人]
- b. 学位・成績などの判定 [2人]
- c. 施設・資料の利用 [0人]
- d. 奨学金の推薦 [0人]
- e. 教育・指導 [5人]
- f. その他 [2人]

(22) その他 [10人]

◎院入試の面接で、女性は早く就職すべきだと言われた。修士修了の際に、結婚するなら博士課程にいてもよいと言われた。

◎教官に受けのよいタイプの女性はかわいがられるという印象があった。

◎「女性だというだけで」というより、年齢が他の学生より高い「主婦」ということで、就職、進学の世話、教育、指導において不合理を感じる。

◎出しゃばる行為がきらわれる。積極的に何か提案・行動しようとする、女のくせに出しゃばると言われやすい。

◎上級生の子女子学生の大半が卒業後結婚、専業主婦というコースをたどったために、「女性は研究室の花」的扱いであった。

◎就職については、学科の求人女子学生はなく、先生に相談をしたら「自分で見つけた就職に対し、不利なことは言わない」と応答された。暗に就職の世話はしないことを示唆されたのみで、不利な扱いは受けていない。

### 3. もっとも深刻だった経験について（問B）

この問では、「今までにあなたが経験した不快な出来事の中で、もっとも深刻だったものを一つ思い浮かべて下さい。同じ相手から受けた長期に渡る一連のふるまいも一つと考えて下さい」として、その経験について詳しく述べてもらうことを求めた。

この問の回答欄に何らかの記入のあった人は95人で、問Aに記入のあった275人の3割程度しかない。また、何らかの記入のある場合でも、一部の設問にしか回答していないものが多かった。これら少数の回答について統計的な扱いを行うと、誤った全体像を導く恐れがある。そこで、集計表などは示さず、出来事の具体的な記述をいくつか引用して、「事例集」とするにとどめたい。

ただし、「不快な経験に関連して、次のような悪影響がありましたか」という設問の回答数だけは表2に示す。性的被害を受けたことも見聞きしたこともない人の中には、「そんな深刻な被害があるとは思えない」というようなコメントを書く人がみられるため、統計的な意味あいとはさておき、深刻な悪影響が確かに存在することを示しておきたい。なお、表2は、この問に何らかの記入のあった95人から、記述内容から判断して「京都大学の学生だったとき、勉学・研究においてあなたとつながりがある京大の教職員（非常勤も含む）や学生・院生などから」（問Aの説明文）受けたのではないと思われるものなど不適当なもの22人を除いた、73人についての集計である。不適当なものとは、サークルのメンバーや卒業後の職場の上司から受けた被害などである。

#### 事例1：身体的接触を拒否したために嫌がらせ

◎修士論文研究の際、指導を受けていた助教授の部屋に机を置いていたので、後ろを通るときに頭を抱えられたり髪を触られたりした。こちらが腹を立てて「やめて下さい」と云うと、「父親のような気持ちだ。ホオにキスしたい」と云うので「私の父はそんなことをしません」と抗議すると、いやがらせが始まった。

他の教官が来ると「この娘は僕が出ていってもらいたいと思っているのに、へびみたいにくらいついてなあ」などと云う。私が実験していると（他の学生の片付けていない実験道具をさして）「片付けていない」ことで30分以上説教される。私が他学部から出向していたので「このボールペンはうちのものだ」等、愚痴をこぼす。私が他の教官、院生と話していると睨み付けて通る。

一連のこういったことでノイローゼになり（微熱が長い間続き、検査にも行ったがどこも悪くなかった）、研究をしているのかどうか何をしているのか悩み、上の教授に相談したところ「彼は、他の人（秘書さん）にもそういったことをしてきたということを聞いている」と云うことで机の場所のかえてもらったもののイヤがらせが続き、助手の人にも「（助教授を避けるため）実験の時間をずらすしかない」と云われ、すっかり研究意欲がなくなった。

学生懇話室へ相談に行ったところ、「〇〇学部や××学部では教授が就職権を

**表2 性差別や性的被害による悪影響**

「不快な経験に関連して、次のような悪影響がありましたか。」

問Bに何らかの記入のあった95人から、記述内容から判断して「京都大学の学生だったとき、勉学・研究においてあなたとつながりがある京大の教職員（非常勤も含む）や学生・院生などから」受けたのではないと思われるものなど不適当なもの22人を除いた、73人についての集計である。複数回答可。

(1) 研究・勉学をやる気がしなくなった、はかどらなくなった。	21人
(2) 研究・勉学を断念した。	8人
(3) 大学に行くのが嫌になった、恐くなった。	15人
(4) 大学を休みがちになった。	8人
(5) 休学・退学することや、所属（研究室・学部・大学など）を変えることを考えた。	10人
(6) 休学した。	1人
(7) 退学した。	1人
(8) 所属を変えた。	2人
(9) 男性を見ると緊張するようになった。	3人
(10) 男性不信になった。	10人
(11) 自分に自信をなくした。	20人
(12) 人とつきあうのがいやになった。	11人
(13) 精神的・身体的な問題を生じた（頭痛、不眠症、ノイローゼなど）。	8人
(14) 自殺を考えた。	3人
(15) 自殺を図った。	0人
(16) その他	11人

握っているのですということをよく聞きます。表立って就職して逃げようとしても潰される可能性があるのです。こっそり逃げなさい」とのこと。別の親しい教官からも「へたに動く（裁判など）とあなたの就職が不利になるしダメージも大きいのでそれはさけた方がいい」との忠告を受け、こっそり自主退学し、現在の職に就くことができた。女性差別というだけでなく、就職権を持つ教授の支配にふりまわされるという点では同じ研究室の博士課程の男の人も「被害」にあっていたと思います。

セクシュアル・ハラスメントに対しては、毅然として拒否すればよい、被害を受けたら身近な人に相談すればよい、という意見が一般によくみられ、今回のアンケート回答にもみられたが、この事例ではそんなことをしても何の役にも立たなかった。また、特に性差別や性的被害の相談機関を設けなくても、学内に既にある学生懇話室（カウンセリング・ルーム）などを利用すればよいのではないかという意見も、相談機関について尋ねた問Cの回答に見られたが、これも疑問である。カウンセラーとしては、その性格・立場上、「こっそり逃げなさい」というような「アドバイス」しか与えられないのであろうが、この場合、もし大学を去らねばならない人間がいるとしたら、当然それは加害者の方であろう。やはり性差別や性的被害に専門的に取り組む機関が必要である。

## 事例2：マッサージをしてあげよう

◎ある科目の教官（30代）は、授業中「君は下手でも一生懸命に取り組むから、何とか上達させてあげたい」と言って、ほぼ私にかかりっきりでした。私は教官に非常になつき、面白い本なども紹介してくれることなどから、全面的に信頼していました。科目の履修が終わる前に、何人かの学生をその教官の研究の実験に使いたいとの申し出があり、私も選ばれました。これは一年間、自宅において指示された作業を行い、何ヶ月かに一度、大学においてデータを取るというものでした。一年後、他の学生については実験が終了したようでしたが、私は実験の延長を求められ、応じました。

さらに一年位たった頃、データを取り終えた後、教官控え室のような部屋に通され、雑談をして（これは毎回のことでした）いるうちに（この前に部屋は施錠されました。時刻は夕暮れ直前頃と記憶しています）、「肩コリがひどいようだからマッサージをしてあげよう。上半身裸になりなさい」と言われました。なぜ下着まで全て脱ぐのか、多少不思議には思いましたが、素直に応じました。教官は、マッサージをしているうちに、私が横たわっているマットに自分も横たわるような形になり、私の胸部付近に触れながら唇にキスしようとしてきました。私は、ここで騒ぐかおびえた態度を示すとかえって危険と思い、「はあ？」ととぼけた声を出して機先をくじき、相手がたじろいだ間に、「寒くなってきましたから」と言って服を着ました。その後も、私は何も不審に感じている点がないような顔をして教官と話をし、その日は何事もなく帰宅しました。その日以降、教官には

会いませんでした。

### 事例3：暴言学科

◎大学生生活4年間を通じ、私の学科（クラス）の女子学生（学科の約4分の1を占める）は皆、クラス担任である教授らから女性差別的・女性蔑視的発言を受け続け、非常に憤りを感じていました。その発言の一部を以下に書きます。

・入学第1日目、入学式後のオリエンテーションで、クラス担任の教授から「女子学生は就職難なので、4年後に私が女子学生の就職の世話をしなければならないと思うと気が重い。女子学生はこの学科をやめてよそへ転部して欲しい」と言われた。

・そのオリエンテーション後の立食パーティーで、1人3分ぐらいずつ壇上で自己紹介するように言われ、私が1分ぐらい話したところで、クラス担任ら数人の教授から「女のしゃべりはみっともないぞー、ひっこめー」とやじが飛んできた。

・クラス担任をはじめ数人の教授らから、授業中に「女子学生は在学中の成績はよいが、社会に出てから2～3年しか使えないので、企業は女子を採用したがない。そんな女子を国のお金で勉強させるのはもったいない」というようなことをたびたび言われた。

・クラスの女子学生の半数近くが大学院への進学を希望したところ、「女子学生は、成績はいいので大学院の入学試験には皆合格するだろうが、女子が勉強しても世の中の役には立たない。女子が大学院入試を受験するということは、本来大学院に進学すべき男子学生を蹴落とし邪魔することになるから、よくない」「女性は結婚して、夫が出世できるよう尽くささえすればよいのであって、大学院など行かなくてよい」などと担任教授らから反対された。

・担任教授は、「女子はどうせ腰掛け就職なんだから」と決めつけ、実家のある場所に近い企業などを指定し、「君はこの企業を受けなさい」と半ば強制的に決めつけ、それに反対すると「君にはどこの企業も紹介しない」と脅すなど、女子学生が真剣に就職先を検討することを認めようとしなかった。

・そのような就職についての面談の場や、その他ことあるごとに、担任教授から「若い女性は、漫画ばかり読んで、フワフワしてて、軽薄で、何を考えているのか、よくわからん」などと、女はバカだと決めつける発言を繰り返された。

・その他、授業中などに「僕は女は嫌いだ」「だから女はダメなんだ」などと敵意をむきだしにして言い放つ助教授・講師などもいた。

当時の私は、入学第1日目から始まった教授らの女性に対する暴言に驚き、憤り、（男性の）大学教官というものに、そして、このような暴言がまかり通る典型的な男性社会である京都大学に対して、大変失望した毎日を送っていました。また、教授らの言葉を鵜呑みにして、世の中（企業など）は女性に対して何も期待してはいないのだと思い込み、落胆し、勉強にも身が入りませんでした。しかし、実際に企業に入ってみると、入社後2～3年で退社する女性など今ではほとんどおらず、企業側も男性か女性かの性別ではなく本人の能力を重視しており、

男性と肩を並べて活躍している女性社員も大勢いることがわかりましたので、教授らの時代遅れの話など鵜呑みにせずに、在学中にもっとしっかり勉強しておけばよかったと、社会人になってからはずっと後悔しています。

とにかく京都大学は、女性の数が圧倒的に少ないために、一般社会からはかけ離れた、ひどい女性蔑視社会であるように思います（私が卒業してからは少しはましになったかもしれませんが・・・）。ぜひとも改善していくべきだと、強く思います。

暴言の集中砲火である。どんなに能力・気力がある女性でもこんな学科に入ったのではやる気を無くしてしまうであろう。その結果、「やっぱり女はダメだ」などと言われたのではたまらない。

就職の性差別については、受け入れる企業の方が問題であり、大学教官のせいにするのはかわいそうだ、というような意見も回答の中にあったが、上の事例をみるとそうとも限らず、世の中の変化に気付いていない（気付こうとしない？）大学教官の頭の古さだけが際立っている。

#### 事例4：大学院進学を拒否される

◎卒業後の進路について、私は大学院に進学を希望していたので、そのことを卒論の指導教授に伝え、私の配属されていたその研究室では、すでに男子学生が進学を希望しているので、私が院入試を受験しても取らないと言われた。つまり成績に関わらず、女子は院生としては必要ないので、受験してもムダだと言われ、早く結婚しろと言われてしまった。結局、受験させてもらえなかった。

言うまでもないことだが、大学の研究室というのは教授の私設機関ではないのだから、上のような教授の言動は違法行為である。

#### 事例5：コンパでキスする教授

◎4回生のとき、所属研究室のコンパで、隣に座っていた教授に、皆の見ている前で軽くキスされました。たったそれだけのことですが、誰も「先生！！」とたしなめてくれなかったことがショックでした。「××学部のスケベな教授3人」のうちのお一人だったそうですから、そんなことたいしたことではなかったのかもしれませんが。歳を重ねた今となっては、「いいおじさんがもう・・・」ぐらいのことですが、その頃は純情だったもので、ちょっと心に残る出来事となりました。

#### 事例6：女なのに働きたいの？

◎修士2年のとき、必死で就職活動をしている際に（自分では深刻な気持ちだった）、研究室の先輩の社会人や大学院生から、「あなたはお嬢さんなんだから働かなくていいんじゃないの」、「女なのに働きたいなんていう気持ち、全く理解できないね!」、「見合いした方がいいよ」などと言われた。



本人に罪の意識がない所に男女の意識のズレがあると思う。よく問題になるセクハラにくらべればあまり深刻ではないかもしれませんが、私にとってはとても不快な言葉でした。

#### 事例7：種々雑多な嫌がらせ

◎卒論指導教授からは、

- ・女性にはケガさえしなければよいと言われ、指導を受けられなかった。
- ・女性であり、学部生であるので論文発表は不要と言われ、自分の実験成果を男子先輩の成果とされた。

また先輩からは、

- ・2人で飲みに行く誘いを断ったため、しばらく実験室に閉じ込められた。
- ・トイレに要した時間を計ったり、行動を監視、強制するようなことを言われた。
- ・就職勧誘に来た先輩に、就職に関する連絡をするために自宅の電話番号を尋ねられた。その後、電話で交際を求められ断ったところ、就職の世話してもらえなかった。

最後に、「京都大学の学生だったとき、勉学・研究においてあなたとつながりがある京大の教職員（非常勤も含む）や学生・院生などから」受けたものではないため、本来この問の回答として紹介するべきではないが、参考になるものをいくつか紹介する。これらは表2の悪影響の集計には含めていない。

◎京大出身の研究者（私が進学しようとしていた研究室の先輩にあたる人）をたずねて、京大の大学院進学も含めて研究上のことを相談に行ったところ、具体的な研究の話は何も進まず、飲み連れて行かれ、ラブホテルに連れ込まれた。まあ、あまりにも自分がバカだったとか無知だったとか、相手の「恋愛」であるかのような口ぶりにダマされたのだが、不平等な立場にあったことやその後の相手のふるまいから、ゲッ馬鹿にしゃがってと気付いたわけだが、思い出すだに吐き気がするほどイヤなイヤなイヤな体験である。今思うと、東南アジア研究センターの事件と同じ構造を持つと思う。

◎4回生後期から、〇〇研究所で実習を行い、卒業後そのままそこに就職して仕事を続けた。その教授から「僕のポケットマネーで君を雇っているのだから、言われたことだけをすればよい。講義を聴きに行くことは許さない。将来、公務員になる可能性はない」と何度も言われた。将来の見通し、給料などを充分考慮しないで、仕事の面白さだけで就職したのは浅はかであったが。それにしても、生活もできない低賃金の職場に斡旋した卒論指導教授の頭も、女性蔑視そのものである。「女性が肩肘はって仕事をする、かわいくなくなるヨ」とも言われた。結局そこを辞めて××学部編入学した。

◎1回生の時、他大学の女子大生と数人で家庭教師のアルバイト広告を新聞に出しました。それを見た京大の大学院生が電話（塾を手伝ってほしいとの内容）をしてきたので、私が代表として一人で面接に行きました。相手は二人でした。

結果は翌日とのことで再び会いましたが、その場で食事に行き、その時の会話はほとんど私生活についての質問なので不審に思い、先ず学生証を見せてもらい相手2人について確認、アルバイトの話でないなら帰宅する旨を告げました。塾に戻り話を続けましたが結局、交際を申し込まれ、断ると、

- ・男の方が力が強いのだからこの場で犯すのは簡単。
- ・女一人でついてきて男と同室したのだから何があっても強姦にはならない。
- ・2対1だから、あとから何を訴えても通じない。

このようなことを言われました。私はただただ呆れ、塾をとびだし一人タクシーで帰宅しました。

翌日、2人の内おとなしい方が謝罪しに来訪、あらためて交際を求められましたがもちろん断りました。

#### 4. 他人の被害を見聞きしたことがあるか（問E）

この問では、他の女子学生で問Aのような経験をして困っていた例を見聞きしたことがあるかどうかを尋ねた。「ある」と答えた人は106人（18%）、「ない」と答えた人は295人（50%）、無回答は188人（32%）であった。

具体的な記述は95件あった。多かったのは、女子が大学院に進学することを嫌がる、進学させないというもので、16件あった。ここでは、問A、Bの具体的記述であまり出てこなかった類のものをいくつか紹介する。

##### i) 関係・接触の強要

◎修士課程の女子大学院生が、指導教官（助教授）にたびたび夕食に誘われ、断っても「こういうつきあいも研究を円滑に進める上に必要だから」と聞き入れられなかった。彼女の論文が受理された時に「お祝いをしよう」と連れ出され、彼女も「今日はしかたないか・・・」と思いながら彼の車に乗りこむと、着いたところは（ふつうの）ホテルの個室。思わずたじろぐ彼女に彼は「ルームサービスで食事をした方がレストランよりゆったりできる」と言い、食事後、強姦未遂。タクシーで下宿に逃げ帰り、ショックからしばらく登校できないでいたが、気を取りなおして教授に相談したところ、教授は「またか」（このハレンチ助教授には前科があるらしい）と言って、彼女の身柄を他所の研究室にあずけただけで、助教授の処分はなかった。素行が悪いのを承知の上で彼に彼女を任せた教授、顔も見たくない助教授に失望した彼女は、研究者になる夢を捨て、課程修了と同時に就職しました。

◎友人の女子学生が、教授（けっこう有名な看板教授）と食事に行く（お酒を飲む）ことを半ば強制され、その際、帰りぎわに抱きつかれキスをされた。教授にとっ

ては一種のスキンシップということで、他の女子学生にも同様のふるまいがあったときく。その場を彼女はつきあっていた男子学生に目撃され、誤解が生じて交際をやめることになった。

- ◎修士論文作成中、深夜に及び手伝ってくれた助手が、終了後当然のようにその女性に抱きついたという事件があった。その助手は他の女性にも同様のことを行っているらしいと、女子学生の間では噂になってはいるらしい。
- ◎教官がしばしば下宿に電話をかけて親しげに話そうとする。
- ◎他の人のアンケート回答の中でたぶん出てくるとありますが、著名な〇〇学教室で、教授が女子学生・院生・研究生・研修員等に性的な関係をしつこく迫る。学会でも有名で、〇〇教室で博士号を取った女性という、「あっ、先生と寝たな」という感じで見られて非常に困るということでした。
- ◎教授の愛人が“研究員”のような形で集まっていた？ 愛人が順に研究費をもらい、学会へ行き、教授のお供で海外に行った、などと聞いた。友人はその中に入らなかったから、不利な立場であると言っていた。

#### ii) コンパなどでの接触

- ◎コンパでよっぱらった男子教員が、女子学生のスカートに頭を入れた。
- ◎「コンパなどの席で、一度は教授の隣へ座って胸を触られなければいけない」と嘆いているのを聞いたことがあります。研究室のトップがすることなので、他の教員も、もちろん男子学生もいさめることができず、泣き寝入りのようでした。
- ◎もう退官された教授ですが、その研究室では毎年の研究室旅行では、手を握るなどの行為の中から一つを選んで女子学生は先生の相手をしなければならなかったそうです。
- ◎ある女子学生の指導教官は、お酒や賑やかなことが好きで、「触る」程度はよくあるようです。彼女は夜でもお酒の席に呼び出されたりするのを避けるため、アパートには電話がないと偽っているようです。

#### iii) 発言

- ◎先輩の20代後半の女性は、当然に男性経験有るときめつけられたり、容姿のことで「茶一点」などとからかわれたりして、お気の毒に感じました。
- ◎就職試験で、思想信条における質問に正直に答えて落ちてきた学生に、怒鳴りつけ、「女は一生がかかっていないから」と言ったという。

#### iv) 進学・就職の差別

- ◎大学院進学に際しては、女子は精々マスターコース止まりで、「ドクターコースを希望しても、就職の世話・保障はできない」（これは大学講座側のみの問題ではなく、その先の受け入れ側の当時の社会体制にも関わると考えますが・・・）という理由のために、“女子は御遠慮下さい”という伝統的看板を掲げていた講座がいくつかあったときいています。それでも、研究テーマから考えて、是非そ

ことを希望するという人はやはり少なく（その中には、受験しても、落とされるといふ噂もあったためか・・・）、女子にも門戸を開放している講座に希望変更するという風潮にあったと思われます。

◎他大学への講師として就職を希望していた私の友人（院生）が「君は女性で将来家庭に入るのだから」と言われ男子学生に就職口を回されたと怒って話をしていた様に記憶しています。能力の点で負けたのなら納得するけれど性別で決定されたのが口惜しいと嘆いていました。

◎1. 就職のことで相談に行くと、就職はあきらめるように言われ、見合い写真を見せられた。 2. 最初から、女性には就職は世話しないと断言された。

#### v) 教育・研究における差別

◎女性が「女性」に関係したことを論文・研究テーマに選ぶと、必ず教官や男子学生から、その女子学生自身の「女性性」や「人間性」、「女性として、また人間としての成熟度」といったことに関してあからさまにからかったり軽蔑したりするような発言が出た。このことは男子学生にはあまり向けられなかった。女性があえて「女性」を選ぶことにはそうならざるをえない問題性が（いろんな意味で）あった。とにかく、そういった教官や男子学生の態度は女子学生にとって不快なものであった。そしてそういったことが原因で研究者への夢を閉ざされていった人もあった。

◎大学院の演習（院生が毎回1人1時間程度の発表をするもの）の場で、男性の先生方が、特定の（全員ではありません）女子学生に対して、たとえ発表内容がひどいものであっても批判をしないという例が見受けられました。これは一種の逆差別である一方、批判を受け入れるという、研究者として基本的な能力が本人に欠けていると決めつける態度であるとも考えられます。ただ、私が知らないだけで男子学生でもこの様な扱いを受けている人もいるかもしれません、学生の能力を評価する上で学生の性別が先生方にどう作用しているのか判断することは難しいかと思います。しかし、このような例が発表の場にいる人達に「どうせ女子はこんなもの」と思わせてしまうのではないかと危惧しています。

◎教官が他の女性教官を女性ゆえに優遇したり、逆にバカにするのを見てきた。また、結婚した女子大学院生には、まったく就職をあつせんしようとしなかった。出産した女子学生は学業を続けることも期待されていなかったようだ。それを見て、就職できるまでは結婚したら不利だ、という考えは深く刷り込まれた。

◎4回生になる時、友人といっしょに卒論テーマの相談に行くと、友人が教官から「女子学生は手がかかるから、卒論のめんどろは見たくない」と言われました。二人で強く抗議したため、教官は謝罪し、その友人の指導教官となりましたが、こういう発言の裏には、過去に困らせた女子学生がいたことがわかりました。真面目に実験をせず、作業は先生にまかせたまま研究室にやって来ない、甘えたり媚びたりする人でした。男子学生が不真面目ならきつく叱れても女性にはどう叱ってよいかわからない教官、あるいは女性に嫌われたくない、泣かれたら困ると

いう教官が多いですね。もちろん女性にも問題があって、当時はそちらにずい分腹が立ちました。

この事例で、過去に困った女子学生がいたのが事実であるとしても、「だから女子学生は困る」というような一般化をすることは妥当であろうか。別の回答者の次のような意見を紹介したい。

◎ある大学の教官が、自分の大学の女性教官に対して愚痴を言っていて、「だから、女性は困る」と言ったことがある。それは、その女性個人の欠点であり、女性一般のものではない。欠点のある男性教官に対してなら、「だから、アイツは困る」と言うはずで、「だから男は困る」とは言わない。少数者はいつでも、個人が一般化される。同じ構造は全ての差別に共通する。これを無くすには、大学の場合は、女性を増やすしかない。

## 5. 性差別や性的被害に対処する相談機関について（問C）

この問では、大学における性差別や性的被害などに対処するための相談機関について、京大での現状とそれに対する女性教官懇話会の意見を示した上で、回答者の意見を求めた（付録1：アンケート調査票を参照）。ここには316件の記入があった。

女性教官懇話会の意見に賛成だと思われる記述（「懇話会の意見に賛成です」のようなものから、「第三者を含めた相談窓口が必要」のように懇話会の意見と同様の指摘をしたものまで）は225件あった。反対に、各部局単位の窓口でかまわないという意見は5件、各部局単位の窓口に加えて部局を越えた窓口もあればよいという意見は4件あった。

以下では、懇話会の意見に賛成か反対かにはこだわらず、様々な意見をできるだけ偏りなく紹介したい。◎印は引用文。○印に続く文はそのままの引用文ではなく、要約である（数名の意見をまとめた場合もある）。

### i) （部局単位では）身近すぎて相談しにくい

○個人のプライバシーに関わる深刻な問題は身近な人間には相談しにくい（特に性的な被害の場合）。現場から十分な距離が確保された、中立的な、そして有能で信頼できる専門スタッフを擁する機関が必要。

◎性的被害にあうと、女性は「自分は頭の悪い人間だ。こんな目に遭うことが想定できなかったのだから。スキもあったに違いない」と自分をまず責めるように（無意識的にも）教育されていると言えます。このような劣等感・罪悪感を同じ職場の人に打ち明けるのは不可能です。

### ii) （部局単位では）内部の人間が公正にできるか疑問

○「動燃」のもんじゅの事故調査や子供のいじめ問題を見てもわかるように、内部

の人間による調査や相談には問題が多い。

○内部の人間が相談者では公正・中立な対応がなされるか疑問だし、仮に公正・中立性があったとしても、被害者側には疑念が残るだろう。疑い出せばきりのないことだが、少なくともそのような危惧を被害者に抱かせるような場であってはならない。

◎（信頼して相談事を持ち込めるかどうかには）第三者の存在はかなり信用度を左右するのではないかと想像します。

iii) (部局単位では) 相談者がこのような問題に理解が深いか疑問

○この問題について深い理解を持った相談者がいないと意味がない。差別や女性の受けた傷、心理的な葛藤、女性の育てられ方（イヤなのに笑ってしまうとか）等々についての理解、共感や専門的知識がないと、「たかがそんなことで」といった対応をされたり、興味本位にとられることになりかねない。

◎教員と学生の力の格差がセクシュアル・ハラスメントの背景。この問題を理解し学生の側に立つ（少なくとも中立）ということが、学生側からわかるような立場の人が必要。

iv) (部局単位では) 相談したことで、より不利にならないか

○「上」にたてついたという烙印を押され、将来にわたって研究活動や就職において不利な状況に追いやられる恐れがある。

○秘密厳守が徹底されるか疑問。本人にとって不快な事実を部局内の人に知られる事となって、さらにいやな思いをしたり、へんな目で見られたりしないか？

○「加害者」に話が水面下で漏れていき、後に、就職や成績、生活面で何らかの報復をされるのではないかとという恐れがある。

◎教職員が担当では、その人の同僚にあたる人の悪口ともとれることは言えません。むしろ、その後のいじめなど逆効果になることが予測されます。

v) (部局単位の) その他の問題

○このアンケートのきっかけになったという事件のように「加害者」がその部局で権力を持っていた場合、部局の教職員が公正な判断を行えるか疑問。

◎部局ごとの対応では、同じ事象について異なった見解が出される可能性があり、統一性に欠けるのでは。

◎教職員による被害であればなおさら他の教職員を信頼できなくなると思います。

vi) 部局単位でかまわない

◎あまり大きくしない方がよいのでは（全学的にの意味）。各部局単位でよいのではないのでしょうか？本来は個人的に片付けるべき問題だと思いますが・・・

◎窓口が部局単位であることについては、その方がそれぞれの状況に即したきめ細かな対応ができるなどの利点も考えられ、是非は一概には言えないと思うが、少

なくとも大学とは中立的な第三者を混ぜること、女性の相談員であることなどは絶対必要条件である。

◎部局単位での相談窓口をしばらくやって様子を見て、改善する。

vii) 部局単位 + 別の機関があればよい

◎部局ごとと、大学から離れたものと両方あって、どちらに行くかは本人が決めるのがよい。

◎部局を越えた（できれば他大学・研究機関も含めた）相談機関があって、そこと部局単位の窓口との連携をとるのがよい。

viii) 相談機関をどこにどのような形態で設けるか（懇話会の要求とは違うもの）

◎学内に既にある学生懇話室や保健管理センターを利用する。

◎学外の人権擁護委員会など他の相談機関を利用する。

◎大学側に設置を要求するのではなく、ボランティアなどによる自主的な窓口を作る。

◎京大内だけでなく、他大学もふくめ、あるいは全ての女性に開かれた機関を設置する方がよい。

◎性差別に限定せず、広く人権に関する問題を扱う機関が必要。

ix) 相談機関の活動内容など

◎調査、警告、各部局に対し処分を促す権限などを持たせる。

◎対処のガイドラインを明文化すべき。

◎「相談」という行為を気軽にできるように窓口を設置しなければ、にっちもさっちも行かなくなった被害者しか相談できなくなり、あまり役に立つものとはならない。ささいなことから相談できる雰囲気を作りそれをPRする。

◎全学共通の「投書箱」の設置も必要。投書という形式は心理的抵抗が相談機関ほどではないし、また、投書の内容・量によっては当局も柔軟にならざるを得なくなるかもしれないから。

◎機関の存在を（男性にも）広くアピールすることが、セクシャル・ハラスメントの加害者に警戒心を持たせる（嫌なことですが）意味でも必要なのではないのでしょうか。

◎長期間加害者を放置し最終的にペナルティを課するというやり方でなく、その行為が相手にとって不快であり今すぐ止めるべきものであることをまずわからせる努力をする。また、被害者の精神的打撃をやわらげる対応、処理、救済は十分にすべきである。

◎他大学の相談機関とネットワークを組み情報交換をする。

◎電話相談ができるようにする。オーストラリアのある大学では、「セクハラ110番」の電話番号が、大学内の各トイレのドアに貼ってあった。もちろん公の掲示板にも。

◎地域のフェミニストカウンセリング団体についての情報を提示する。

x) 相談担当者について（懇話会の要求にはなかったもので）

(a) 具体的な職業・立場

- ☐ 臨床心理士      ☐ フェミニストカウンセリングを専門とする人
- ☐ 外部の心理学・社会学等の学識経験者
- ☐ 精神科医      ☐ 医師      ☐ 牧師
- ☐ 研究・教育活動を長期間続けてきた退職教官
- ☐ 学部長もメンバーであるべき（人事権があるから）
- ☐ 教授でない人      ☐ 一般市民      ☐ 学生

(b) 性別

- ☐ 女性を主に      ☐ 男女半々      ☐ 男女取り混ぜ

(c) その他

- ◎ 老若男女多人数（性差別と感ずるかどうかに個人差あるから）
- ◎ できるだけ若い人
- ◎ 狭い世界にのみ生きてきた人では有益な対処方法を探ることは難しいので、幅広い分野の人で構成したい。
- ◎ 女子卒業生で各分野で活躍中の方々や専業主婦など各年代の人々の交替での相談日を設けて、いろんな生き方、世界があることを知ってもらうのも一つの方法では。大学のみにいると世間が狭く、教授の言うことを聞かなければと思ひ込むのではないか。
- ◎ 専門職員も必要。職員の付帯業務では相談する方も安心できない。
- ◎ 相談者となる人は、この問題に関する教育を受けるべき。

6. 相談機関の他に必要なこと（問D）

この問では、相談機関の他に、大学における性差別や性的被害などに対処するため、どのようなことが必要だと思うか、意見を求めた。ここには 239 件の記入があった。

以下では、具体的な意見を中心に紹介する。◎印は引用文。○印に続く文はそのまの引用文ではなく、要約である（数名の意見をまとめた場合もある）。

i) 学内での教育・啓蒙

- ◎ 男性・女性を問わず、こういう問題がどれだけ重要なことかという認識を深めることが必要。軽度な差別やセクハラは、する方も軽い気持ちで、あるいはそれと気付かずにしていることも多い。女性の側にもそれをはっきり指摘する勇気が必要で、普段から意識していないと無理だと思う。
- 女子学生に対して、こういう扱いを受けると怒っていいんだよとか、こういうのは告発していいんだよとか、啓発していく必要がある。
- ◎ このようなアンケートの結果報告等、実態を皆に知らせる。



- どのような言動が性差別・性犯罪にあたるのか、被害者はどのように対処すればよいかをガイドラインとしてまとめ、全教職員・学生に周知させる。罰則規定も明らかに出来ればよい。
- 性差別・性暴力をしないように大学側の公的な文書としてパンフレットを作成し、教官・学生一人一人に配布する（学生には入学時の書類と一緒に入れるなど）。大学からの公的な通達として性差別防止のポスターを各所に掲示する。教授会などでも、それについて意思確認の話し合いを公的に持つ。
- 男性も交えた話し合いの機会を設け一人一人に考えさせる必要がある。特に男子学生を教育していくことも必要。女性学の講義や講演、シンポジウム等で呼びかけをしたり、意見交換したりする場を作る。
- 教授・助教授クラスなどにも研修を受けさせる。

## ii) 大学以前・大学外の教育・啓蒙

- 大学だけでなく広く啓発すること。「学校の勉強」だけができればいいという環境そのものが問題。小さい頃からの教育の現場から変えていくことも必要。もっと人間らしい生き方を。
- 両親をはじめとし、幼児期から小・中・高に至るまでの教育に携わる先生方の意識改革を地道に促すことが大切。

## iii) 女性側の態度・心構え

- 毅然とした態度で望む。 ○隙を見せない。 ○一対一の間をできるだけ作らない。 ○泣き寝入りはしない。 ○身の回りのことについては自分で気を抜かず、用心する。 ○はっきり No という意志表示をする。
- 本人が事実を記録しておくことなど、毅然とした対処が必要。
- わずかな問題でも声を大にして抗議する。男性側が性差別と気づいていない場合も多いので、女性是不愉快であるということを明確に表明すべきであり、笑ってごまかすとか角が立つとか考えない事が重要である。
- 大きな被害にならない初期の段階で上手に止めさせる方法を身につける。
- だまっていない。正当に自己主張できる訓練をする（assertive training）。

## iv) 女性同士の交流・ネットワーク

- 女性同士が学部を越えてこういった問題を気軽に話し合う機会、懇親会等があると良い。パソコン通信やインターネットなども利用してみてもいい？
- 女子学生、女性教官の全学組織を作って普段は何もしなくてもいざというとき縦横の連絡がスムーズにできるようにしておく。悪質なセクハラに対しては、そうした組織が存在するだけで意味があると思う。
- 初めて女子学生が入学した昭和21年に、学生部は東京文理大卒業の共学経験者（女性）を非常勤で世話役に依頼して、学生部に女子学生の部屋を作り、女子学生の溜まり場になっていた。購入する雑誌の希望も入れて（部外の寄付をその方

が求められたらしい?)、一寸したミニミニ図書館の役も持っていました。

- ◎女性同士(男性を含めてもいいが)の「ゆるやかな団結」といったものが必要。女性問題に敏感で熱心に研究している女性は、「大学卒業後勤めて結婚したら専業主婦」と考えているような学生を非難したり啓蒙したりしようとしています。また女性差別を自身が受けなかったり鈍感だったりする人は、「特殊なケース、自分には関係ない」と思ったりします。そうではなく、どういう人生を選択するかや価値観などを云々する前に、性差別への不快感で大きく団結した方がよいのではないのでしょうか。

#### v) 体制の改善

- 教授や一部の人のみが、その研究室の人間(男でも女でも)の運命を左右するような体制を見直すべき。
- ◎学部、学科、教室内の人間関係をオープンにして行くこと。研究室間の交流を活発にすること。
- ◎講座やゼミ、学部、あるいは大学の間の交流をさらに深め、よその講座や研究室に移ることがもう少ししたやすくなればいいと思う。この研究室でなんとしてもがんばらなければ・・・と思うから、全てがうやむやのまま泣き寝入りすることになるのではないか。
- 研究者定年制を含め就・転職を流動化し、公募など採用をガラス張りに。
- (教授のポケットマネーなどで)私的に雇用する関係などはなくすべき。
- ◎もっと社会人学生を受け入れるとか、市民講座をたくさん作るとか、大学自体をもっとオープンにする。
- ◎教官の任用に差別がないように、任用を公平に審査する機関を設ける。

#### vi) 就職状況の改善

- ◎就職状況の改善が必要。就職時の差別がある限り、大学での性差別は起こってしまうでしょう。例えば、就職の世話が大変だから女子学生は指導したくないなど。

#### vii) 女性を増やす

- 学内の女性の絶対数(学生・教職員とも)が少ないことが問題の原因の一つと考えられる。職員の女性の比率に一定の達成ラインを設けるなど、アファーマティブ・アクション(affirmative action)といったものを実施する。
- ◎女性教官の数、地位などを、公表して欲しい。またその公表を毎年行って是正されているのかいないのかははっきりさせて欲しい。

#### viii) 公表せよ

- 事件が起こった際には公表し、世間の批判といった制裁処置を与える。
- ◎学内の広報や新聞に、実際に起きたセクハラなどの例などを載せる連載を作るとかはどうでしょう? 具体例(特に日常のちょっとしたこと)を載せて、どこがどう

イヤなのかわかってもらうようにする訳です。何がセクハラなのかわからない人には一つ一つ例で示すのがよいのでは……。けっこうみんな読むのじゃないでしょうか。

#### ix) 実態調査

- ◎今回のようなアンケートを定期的に現職の研究者や学生にする。
- ◎実態調査を公表できる機関誌のようなものがあれば良い。性差別の事例など明らかなものは、多くの人に訴えかけることで多くの人の意識（している方もされる可能性のある側も）を少しずつ啓発できるのではないかな。

#### x) 外部の相談機関を紹介して欲しい

- いざという時に、どこへ相談に行けばいいかという情報提供があるとよい。そうすれば学内の相談機関があてにならないものでも、どこへ行けばよいか分かる。そういう相談相手を紹介する機関誌などがあるとよい。

#### xi) 連帯

- ◎自治組織（学生の場合は自治会、職員の場合は組合など）の連帯が必須。
- ◎企業その他の性差別と闘う人たちとも連帯する必要有り。

#### xii) その他

- プライベートな時間のコンパをなくす。
- ◎研究を保障するために、学内に保育所や学童保育所などを設置する。
- 建物のオープン化。密室の個室を少なくする。街灯を多くする。
- 密室で一对一にならないようにする、ドアは開けておく等の予防をすることが必要。
- ◎教職員及び学生すべてに、就職・入学時に、性差別をしないという誓約書にサインしてもらう。違反のときは、相談機関に訴え、退職・退学もあるとする。
- ◎大学選びをする資料として、男性教官の対女性態度ランキングなどを作成して受験生に配布する。

### 7. その他のコメント（「その他」欄）

アンケートの最後の「その他、何でもご自由にお書き下さい」という欄には、323件の記入があった。

アンケートの内容に驚いた、このようなことは（在学中は）経験したことも見聞きしたこともない、私は楽しい大学生活を送った、そんなことがあるとは信じられない、というような記述がかなり多かった。全回答者の内、自分が経験したこともなく、かつ見聞きしたこともない人は287人（49%）であるので、当然であろう。

就職後の職場内での性差別・性的被害について、自己の体験や見聞を述べて、大学

との比較をする人も多かった。そのほとんどは、職場の方が大学よりひどいというものであったが、大学の方がひどいというものも少数あった。

学内に女子用のトイレや更衣室などの施設が少なくて困った、これは女性のことが視野に入っていないことの表れではないか、というような指摘がいくつかあった。

◎いささか次元の違う話ですが、当時〇〇学部には女子用トイレが無く、男女兼用トイレの一つの個室に「女子専用」と紙が貼ってあったのですが、トイレの入り口付近にはいつも男子学生がたむろしていて、なかなかトイレを使う勇気が出ず、昼休みに3～4人で乗り合わせてタクシーで××学部のトイレへ通ったこともあります。

◎在学中は女子トイレも十分でなく、男子トイレを一部かこったような狭いトイレを使うたびに、男女差別を放置するような大学の体質を感じて腹が立ったものだった。

この報告書の「はじめに」でもふれたが、このような調査をしている女性教官懇話会に対する励ましや、様々な注文、批判なども多数寄せられた。感謝するとともに、注文、批判については真摯に受けとめたい。その他にも様々な意見・感想が寄せられたが、紙数の都合上、紹介できないことをお詫びする。

最後に、何らかの被害を受けたことのある人へ向けられたメッセージを紹介して終わりとしたい。

◎もし、被害にあわれて、人間不信に陥っている方がいらっしゃったなら、私のこれまでの少ない経験より言えることは、人間不信に陥ることによって、自分自身をもダメにしてしまわないで欲しい。人を信じられないということは、本当に辛いことだと思う。どんな人にも、罪を犯す側面があるのと同様に、善なるものに対するあこがれも必ずある。加害者をそんなゆとりを持って見ることは無理だろうが、信じることのできる人も必ずいる、ということを知ってほしい。

◎被害にあわれた方、泣き寝入りせず、女性は力を合わせて、助け合ってください。女性が一人の人間として、のびのびと自分の能力を伸ばしていけるよう、少しずつ前進して行きましょう。

## 参考文献

- 1) 職場のセクシャル・ハラスメントを考えるネットワーク編『証言 セクシャル・ハラスメント』ピースネット企画, 1989.
- 2) ニニ・ハーグマン (多勢真理訳) 『性の脅威 職場のセクシャル・ハラスメント』学陽書房, 1990.
- 3) 働くことと性差別を考える三多摩の会訳編『日本語版 性的いやがらせをやめさせるためのハンドブック』働くことと性差別を考える三多摩の会, 1988.
- 4) 働くことと性差別を考える三多摩の会編『女 6500 人の証言 働く女の胸のうち』学陽書房, 1991.
- 5) 日本太平洋資料ネットワーク編『日米のセクシュアル・ハラスメント ——現状レポートと対策——』新水社, 1992.
- 6) 中下裕子・福島瑞穂・金子雅臣・鈴木まり子『セクシュアル・ハラスメント』有斐閣, 1991.

## 付録 1 : アンケート調査票

### <性差別に関するアンケート>

※ 答えにくい質問に関しては、とばしてくださって結構です。ごく一部しかご回答いただけなかった場合でも、ぜひご返送ください。

◎あなたが京大に在籍していた期間について、当てはまる番号すべてに○を付けて下さい。

(1) 学部 (2) 修士 (3) 博士

◎あなたが(卒業、修了、退学などで)京大を離れた年代は?

(1) まだ在籍中 (2) 90年代 (3) 80年代 (4) 70年代 (5) 60年代 (6) 50年代以前

◎問A あなたが京都大学の学生だったとき、勉学・研究においてあなたとつながりがある京大の教職員(非常勤も含む)や学生・院生などから、次のようなふるまいをされて不快に感じたことがありますか。当てはまる番号すべてに○を付けて下さい。

発言に関する項目では、もしよろしければ( )内に具体的な内容をお書き下さい。

### <<< 授業の場で >>>

(1) 教官が女性をバカにしたり、型にはまった役割を押しつけるような発言をした。

( )

(2) 教官が容姿や服装などに関する不快な発言をした。

( )

(3) 教官が身体にわざと触ったりした。

(4) その他 ( )

<<< 授業以外の場で >>>

(5) お茶くみや掃除、コンパでのお酌などの役割を、当然のことにようにさせられた。

(6) 聞きたくもない性的な話をされた。  
( )

(7) いやらしい目つきをされた。

(8) 目につく場所にヌード写真などを置かれた。

(9) 女性だというだけで能力が低いと言われたり、研究内容を批判されたりした。  
( )

(10) 女性だというだけで、ちやほやされて甘やかされた。

(11) 容姿、身体、服装、私生活などに関して、不快なことを言われた。  
( )

(12) 容姿、身体、服装、私生活などに関して、噂を流された。  
( )

(13) 性的な内容の手紙、電話などをよこされた。  
( )

(14) 意識的に身体に触れられた。

(15) 地位・立場などを利用して身体的接触を求められた。

(16) 地位・立場などを利用して交際や性的関係を求められた。

(17) 強姦未遂。

(18) 強姦された。

(19) 他の男子学生と比べて次のような点について不利な扱いを受けた。

(a.~f.にも○をつけて下さい。複数選択可。)

a. 就職・進学などの世話

b. 学位・成績などの判定

c. 施設・資料の利用

d. 奨学金の推薦

e. 教育・指導

f. その他 ( )

(20) 以上のようなふるまいに対して拒否や抗議をしたために、次のような点について不利な扱いを受けた。(a.~f.にも○をつけて下さい。複数選択可。)

a. 就職・進学などの世話

b. 学位・成績などの判定

c. 施設・資料の利用

d. 奨学金の推薦

e. 教育・指導

f. その他 ( )

(21) 逆に、以上のようなふるまいに対して拒否や抗議をしなかったために、次のような点について有利な扱いを受けた。(a.~f.にも○をつけて下さい。複数選択可。)

- a. 就職・進学などの世話
- b. 学位・成績などの判定
- c. 施設・資料の利用
- d. 奨学金の推薦
- e. 教育・指導
- f. その他 ( )

(22) その他 ( )

◎問B 今までにあなたが経験した不快な出来事の中で、もっとも深刻だったものを一つ思い浮かべて下さい。同じ相手から受けた長期に渡る一連のふるまいも一つと考えて下さい。

※そのような経験がない方は、問Cに移って下さい。

・その経験には、前問Aの選択肢のうち、どのようなものが含まれていましたか。当てはまる番号をすべて書き出して下さい。 ※記入例 (3 11 5 21a )  
( )

・それはいつ起こりましたか？ あるいは始まりましたか？

- (1) 5年以内 (2) 5～10年前 (3) 10～20年前 (4) 20～30年前
- (5) 30～40年前 (6) 40～50年前 (7) 50年以上前

・それはどのくらいの期間続きましたか？

- (1) そのときだけ (2) 1週間以内 (3) 1カ月以内 (4) 半年以内 (5) 1年以内
- (6) 1～3年 (7) 3年以上

・そのときのあなたの立場(学年など)は？ ( )

・相手はどういう立場の人でしたか？ その人の身分や、あなたとの関係がわかるように書いて下さい。(記入例：卒論の指導教授、直接指導されていない講師、講義で会う助教授、研究室の先輩の大学院生、後輩の学部学生、など)

( )

・相手の年齢は？(複数の場合には、最も中心的にやった人の年齢)

- (1) 10代 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代 (5) 50代 (6) 60代以上 (7) 不明

・どのような対応をとりましたか。当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。さらに、その結果状況がどうなったかについて、右側の a.~c. のどれかに○をつけて下さい。

<対応>

<その結果、状況は>

a. 良くなった b. 変わらない c. 悪くなった

(1) 特に何もしなかった。

a. b. c.

(2) 無視した。

a. b. c.

(3) 避けた。

a. b. c.

(4) 冗談にまぎらそうとした。

a. b. c.

- (5) やめるように相手に言った。 a. b. c.  
 (6) やめるように要求する文書を相手に渡した。 a. b. c.  
 (7) 誰かに相談した。 a. b. c.  
 (8) その他 ( ) a. b. c.

・誰かに相談した人にお尋ねします。どんな人に相談しましたか。当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。さらに、その結果状況がどうなったかについて、右側の a.~c. のどれかに○をつけて下さい。

<相談相手>

<その結果、状況は>

a. 良くなった b. 変わらない c. 悪くなった

- |              |    |    |    |
|--------------|----|----|----|
| (1) 家族       | a. | b. | c. |
| (2) 友人       | a. | b. | c. |
| (3) 身近な学生・院生 | a. | b. | c. |
| (4) 教官       | a. | b. | c. |
| (5) 事務職員     | a. | b. | c. |
| (6) 学生懇話室    | a. | b. | c. |
| (7) その他 ( )  | a. | b. | c. |

・不快な経験に関連して、次のような悪影響がありましたか。(当てはまる番号すべてに○を付けて下さい)

- (1) 研究・勉学をやる気がしなくなった、はかどらなくなった。  
 (2) 研究・勉学を断念した。  
 (3) 大学に行くのが嫌になった、恐くなった。  
 (4) 大学を休みがちになった。  
 (5) 休学・退学することや、所属(研究室・学部・大学など)を変えることを考えた。  
 (6) 休学した。  
 (7) 退学した。  
 (8) 所属を変えた。

具体的に書いて下さい。( )

- (9) 男性を見ると緊張するようになった。  
 (10) 男性不信になった。  
 (11) 自分に自信をなくした。  
 (12) 人とつきあうのがいやになった。  
 (13) 精神的・身体的な問題を生じた(頭痛、不眠症、ノイローゼなど)。

具体的に書いて下さい。( )

- (14) 自殺を考えた。  
 (15) 自殺を図った。  
 (16) その他 ( )

・もし差し支えなければ、一連の出来事の内容をできるだけ詳しくお書き下さい。



(※ B5版約1ページのスペースがここに入る)

次に、今後の対策を考えるために、ご意見をお聞かせ下さい。

◎問C 女性教官懇話会では、大学における性差別や性的被害などに対処する機関として、被害者の立場を第一に考え、このような問題を専門とするカウンセラーや弁護士など第三者を含めた、大学の利害からは中立的な、部局（学部、研究所など）を越えた相談機関を設けるように、大学側に要求してきました。

しかし、私達の要求に反して、各部局単位で窓口を設置し、それぞれの部局の教職員（場合によっては学部長）が相談に応じることになりました。このような窓口では、以下のようなさまざまな問題点があると私達は考えています。

- ・窓口が同じ部局だと、身近すぎて相談しにくい。
- ・同じ部局の人間が公正に調査できるのか疑問。
- ・学部や大学の体裁を保とうとするのではないか。
- ・相談担当者が教職員では、このような問題に理解が深いとは限らない。

相談機関の望ましいあり方について、あなたはどのようなご意見をお持ちでしょうか。ご自由にお書き下さい。

(※ B5版約3分の1ページのスペースがここに入る)

◎問D 相談機関の他に、大学における性差別や性的被害などに対処するために、どのようなことが必要だと思いますか。

(※ B5版約3分の1ページのスペースがここに入る)

◎問E 他の女子学生で、問Aのような経験をして困っていた例を見聞きしたことがありますか。

- (1) ない
- (2) ある

それはどのようなものですか。

(※ B5版約2分の1ページのスペースがここに入る)

◎その他、何でもご自由にお書き下さい。

(※ B5版約2分の1ページのスペースがここに入る)

ご協力ありがとうございました。

## 付録 2：セクシュアル・ハラスメントの定義の例

セクシュアル・ハラスメントの定義の例を 4 つ挙げておく。

わが国の労働省が出している啓発資料「女性の能力発揮のために」での定義

相手方の意に反した、性的な性質の言動を行い、それに対する対応によって仕事を遂行する上で一定の不利益を与えたり、又はそれを繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること

最もよく引用されるものとしては、

アメリカ合衆国の雇用機会平等委員会（EEOC）のガイドライン

性に基づくいやがらせは、（1964 年公民権法）第 7 編 703 条に違反する。歓迎されざる性的な言い寄り、性的な要求、その他性的な内容の口頭または肉体的な行為は、以下の場合セクシュアル・ハラスメントと見なされる。（1）以上の行為への服従が明確なものにしる含蓄的なものにしろ個人の雇用条件を伴って行われる場合、（2）上記の行為への服従または拒絶が被害を受けた個人の雇用条件の決定の材料に用いられる場合、（3）上記の行為が個人の職務遂行に不当な干渉となったり、脅迫的、敵対的、または不快な労働環境を作ることを目的としたり、そうした影響を及ぼす場合。

（文献 5 より。ガイドライン冒頭の定義部分のみ引用。なお、公民権法第 7 編とは、人種、皮膚の色、宗教、性、出身国を理由とする雇用上の差別を禁止した法律である）

より分かりやすい定義の例を挙げると、

職場におけるセクシャル・ハラスメントの定義（スウェーデンの平等オムブズマンの提案）

職場におけるセクシャル・ハラスメントとは、職場や採用時におけるあらゆる種類の歓迎されない性的な言葉や行為などで、それにより女性が屈辱や精神的苦痛を感じたり、不快な思いをさせられるもの。

以下の事柄は、セクシャル・ハラスメントとみなされる。

- (1) 性的奉仕または性的関係が、明らかにあるいは暗黙のうちに、女性採用の条件である時
  - (2) 性的譲歩の要求が、給与支払や昇給をストップさせる、配置転換をしたり職務内容を改悪する、根拠なしに非難する、評価を下げる、孤立させる、噂をふりまく、といった罰の威嚇に結びついている時
  - (3) 仕事の上での特典が、性的奉仕と引き換えに約束される時
- 次の場合も、セクシャル・ハラスメントである。すなわち性的な言葉や動作が
- (4) 敵対的、威嚇的、屈辱的な職場環境を作り出す時

(5) 彼女の仕事を妨げる時

こうしたセクシャル・ハラスメントの例としては、次のような女性が歓迎しない

- ・「卑猥な言葉」やポルノ写真
- ・セックスを連想させる目つき、ジェスチャー、呼びかけの言葉
- ・容姿、服装、私的生活に関する感想や評価
- ・意識的に、何らかの形で身体に触れること
- ・性的奉仕や性的関係の誘い、または要求

などが挙げられる。(文献2より)

さらに、教育施設におけるセクシュアル・ハラスメントを禁止する法律の例を挙げておく。

オーストラリア性差別禁止法(1984年3月31日裁可、8月1日施行)

第3節第29条(教育における性的嫌がらせ)

- (1) 教育施設の教員がその教育施設の学生である者又はその教育施設に入学しようとしている者に性的嫌がらせを行うことは、違法である。
- (2) この条においては、他人に対して、歓迎されない性的言い寄りをし、若しくは性的行為につき歓迎されない要求を行い、又は他人に関してその他の歓迎されない性的性質の行為を行った者は、次の各号のいずれかに該当する場合には、その者に性的嫌がらせを行ったものとする。
  - (a) その言い寄りを拒絶し、その要求を拒否し、又はその行為に異議を唱えることにより自己の勉学又は自己の教育施設への入学の申請に関して何らかの態様で不利益を受けると信ずるに足る合理的な理由がある場合
  - (b) その言い寄りを拒絶し、その要求を拒否し、又はその行為に異議を唱えたことにより、その者が自己の勉学又は自己の教育施設への入学の申請に関して何らかの態様で不利益を受ける場合
- (3) (2)項における人に関する性的性質の行為についての規定は、口頭であると書面であるとを問わずその者に関する性的性質の行為の陳述をその者に対して、又はその者の面前で、行うことを含む。(文献6より)